

アメリカ/Pinellas Countyにおける magnet schools

中 村 護 光

(平成8年9月30日 受理)

Magnet Schools in Pinellas County

Morimitsu NAKAMURA

A magnet school is a public school with open enrollment, designed to encourage desegregation. They receive grants from the Civil Rights Office of the federal government. In order to attract students district-wide, they design unique curricula and have especially fine facilities, often more attractive than those available at ordinary public schools. The magnet school concept has become very popular in American public education. In this paper, we observe a typical school district where magnet schools enjoy a high reputation and the magnet program has been actively developed. The paper presents the total picture of the program in the district and characteristics of each magnet school, comparing them with those of regular public schools in the same district.

1. はじめに

合衆国では、親や地域住民達(教育消費者)の自由な学校選択への願いと権利意識の高まりが、近年多くの州で教育の deregulation (自由化)の実験を活発化させている。この間、合衆国の公教育における alternatives, つまり公教育の中での選択は、学校区の自己改革とシステムの中に多様と選択の要素を組み込む努力を通じて、着実に信頼と人気を高めている。Public school choice (公立学校の選択)は、1990年代に入り、ブッシュ前大統領からクリントン大統領へ引き継がれ、国家的な注目と支持を得てきているように見える。ここでは、フロリダ州 Pinellas County の例を取り上げて、public school choice の一形態である magnet schools の実際と特徴を考察してみた。

2. Pinellas County と Pinellas County Schools

Pinellas County は、Florida 半島の西岸、メキシコ湾とタンパ Bay に挟まれた小半島一帯の行政区である。長さ38マイル、幅が最大15マイルの面積で、フロリダ州の中では2番目に小さな County である。しかし、自然環境に恵まれた緑豊かなこの地区の人口は年とともに増加の一途をたどり、1990年の統計では、893,000人と報告されているが、人口密度では、州の中で最も高い county である。この county の行政監督官庁は、半島のほぼ中央にある Clearwater 市におかれている。この Clearwater 市は人口10万規模の都市であるが、この

county では2番目に大きな市であり、長野市と姉妹都市提携を結んで、毎年活発な教育交流が行われている。しかし商業活動は半島の南端に位置する人口約24万の都市 St. Petersburg が中心である。

この行政区と同一地区を管轄する学校区、Pinellas County Schools は、1994—95年度現在では、合衆国のおよそ16,000の学校区の中で22番目の規模を誇り、小学校81校、middle school (中学校) 22校、high school (高校) 15校の設置者である。K-12教育 (幼稚園から12学年まで) の学校区の諸学校に在籍する生徒数は100,043名であり、内高校 (9~12学年) には26,017名が在籍している。教員数 (管理職も含む) は常勤7,414名、非常勤3,122名で、ここに補助サービスを担当する常勤の職員4,668名が配置され、教員対生徒の割合は、小学校低学年で1:23、高校で1:27となっている。この The Pinellas County 学校区の歳入は、1995—96年度では\$810,374,261で、財源の比率は学校区、州、連邦政府から各々48.6%、48.0%、3.4%で構成されている。州からの配分は、学校区間の格差を防ぎ、州全体の子どもに教育の機会均等を保証する趣旨から、Florida Education Finance Program (FEFP) に基づいて支出されている。学校区独自の歳入の内訳は、ほとんど資産税からのものであり、また、連邦政府からの内訳は連邦政府主導の教育プログラムへの助成金である。

3. Pinellas County の choice プログラムの概要

Pinellas County には、county 内のすべての公立学校で用意される通常のプログラムとは別に、能力、興味等に応じ、個人の特性の陶冶・伸長を目的とする public school choice プログラムが存在する。1994—95年度の同プログラムの参加生徒数は5,000名を越える。

これらの Pinellas County の choice プログラムの中心となるものは magnet schools のネットワークである。Magnet schools は、学校区が区内のすべての人種集団から生徒を集める魅力ある学習プログラムを提供するため、施設、設備、資金を集中させ、テーマ領域に応じた特別のカリキュラムを持たせた公立学校である。1970年代に公立学校での desegregation (人種融和) を図るための busing (強制バス通学) が合法化された折に、Minneapolis の alternative schools が人種的に多様な生徒を集めている実績を認められて連邦裁判所より busing を免除された。これが magnet schools として認可された最初の学校であった。その後、magnet schools は、1973年の Denver、75年の Huston の学校区に関する最高裁判所の判断の中でも公立学校の中の desegregation の手段として有効と再確認されて以来、busing を嫌う白人からは歓迎され、70年代後半に急成長を遂げた。

Magnet プログラムに対する予算措置は、the Magnet School Assistance Program (MSAP) と呼ばれる連邦政府からの補助金 (grant) を基に学校区が賄っている。この MSAP の設置目的は、学校区内の desegregation plans の奨励、模範となる優れたカリキュラムの奨励である。この趣旨と制度を活用して Pinellas County 学校区では、1984年に学力及び芸術的能力を開発するための2種類の magnet schools を既存の St. Petersburg High 及び Gibbs High の校地内に開校した。既存校との併設方式のため magnet schools の校長はいずれも既存校の校長の兼務となっており、プログラム独自の実施責任者として副校長が配置されている。これら既存校に於いては生徒集団の中でのヒスパニックや黒人の子弟の割合が高く、人種構成上のバランスをとる必要があったこと、このため地区裁判所の命令によ

る desegregation plan に従って通学範囲の線引きをやりなおす必要が生じていたことなどがプログラムの開始及び、magnet schools の設置場所の決定の大きな理由となったのである。

現在、Pinellas County 学校区は、K-12の生徒を対象に学年に応じて選択できる様々な magnet プログラムを開設している。高校では、全部で8つの magnet が稼働しており、K-12教育の choice プログラムの中心を形成している。ほとんどは能力開発型プログラムであるが、向学心ある生徒向けの早期卒業の機会を提供する Early Graduation Option(EGO) program のような異種の magnet も存在する。

中学校 (middle school : 6-8 学年) 段階における choice プログラムは、MEGSSS と IMAST に代表される。MEGSSS は the Mathematics Education for Gifted Secondary School Students の略であるが、数学を得意とする中学生を対象に組まれた3年間のプログラムである。1985年に開発され、1995-96年度現在では County 内の4校に設置され、約900名の生徒が在籍している。プログラムへの参加は、小学生学力テストにおける一定の得点を上回った能力が要求される。IMST は、the Integrated Mathematics and Science Technology の略で、理科と数学を得意とする7、8学年生を対象とする合科的プログラムである。参加にはこれも一定の学力が要求されるが、MEGSSS に属する生徒は、自動的にその参加資格を与えられている。1995-96年度の IMAST の参加生徒は約400名である。中学校で magnet program を持つ学校では、これら両プログラムを用意しており、ほとんどの生徒はその両方に参加している。遠距離から通学する生徒には school bus が用意されている。

この他に Pinellas County 学校区は、小、中学校生徒を対象に人格 (structure) 形成・躰けの指導に重点を置き、家庭学習 (宿題) と親の教育参加を義務付けた fundamental schools を4つの小学校と2つの中学校に開設している。すべての生徒が応募資格を有するが、入学選考は無作為でコンピュータで行われる。Fundamental elementary school の修了者は、希望すれば自動的に fundamental middle school に入学できるが、通学費については、小、中学校とも親が責任を持ち負担する。

このプラス指向の magnet とは対照的な補充型の choice として、学習意欲を欠き、観察指導や、個人的サポートの必要な生徒を対象にした2つの choice プログラムも稼働している。Challenge 及び Discovery schools である。Challenge については4、5学年の生徒を対象に Robinson Challenge と St. Petersburg Challenge の2つの小学校のプログラムが、Discovery については6~8学年生を対象に Clearwater Discovery と Lealman Discovery の2つの middle schools のプログラムが開設されている。Challenge の各学校は定員180名、Discovery は420名を限度として生徒を在籍させている。学校への交通手段は学校区が提供する。全体で1,200名となる生徒は、小集団または個別形態で授業を受け、親の積極的な教育参加が強く求められている。同プログラムは、地域の関係諸機関、団体、産業界との提携を密にして運営され、基礎力定着、個性の伸長を通して生徒の自己改善を図ることを目標としている。

Pinellas county の学齢児童生徒は、原則的には親や保護者の居住地に基づいた所定の学校に通学することになっている。しかし、指定された学校では提供されない科目の履修を希

望したり、障害や医療上の理由等で特別な指導を必要とする生徒は、別の学校を選択して、特別通学許可 (Special Attendance Permit: SAP) を申請できるようになっており、この特例が choice の枠を広げる手段の一つともなっている。申請は、理由が正当であれば希望する学校に収容能力があり、人種的構成を崩すようなことがないかぎり許可される。SAP は、一年毎に有効な許可制度であるが、交通手段が提供され、1994—95年度では、7,745件の申請にたいして、6,162名が受理された

次にこれら public school choice の中心となっている高校の代表的 magnet の特徴をまとめてみた。

4. Magnet schools の実際

現在の Pinellas County 学校区にある 8 つの magnet high schools のうち 4 校は 1994 年以降に開設されたものである。この事実からも、ここ数年の同学校区における magnet プログラムの人気とその急速な拡大及び学校区の public school choice への積極的な姿勢を窺い知ることができる。ここでは、最初に設置された 4 校のプログラム——1984 年開校の St. Petersburg High の the International Baccalaureate (IB) 及び Gibbs High の Pinellas County Center for the Arts (PCCA) ; 1990 年開校の Lakewood High の the Center for Advanced Technologies (CAT) 及び Boca Ciega High の the Early Graduation Option (EGO)——の実際を概観し、各々の特徴及びプログラムの共通点を整理してみた。

(1) 入学生徒の選考基準

Magnet プログラムの人気は高く、IB の場合は応募者は従来 3 倍に達している。本来学校区のすべての生徒に開かれた choice プログラムではあるが、実際にはカリキュラムの性格から応募者を選考し、次の表に見られるような入学条件が設けられている。

Program の名称	IQ の得点	CTBS 得点	評定, その他
IB	120以上	90%以上	6 学年以降で、すべての academic courses において B 以上
CAT	120以上	90%以上	6 学年以降で、数、理、computers において B 以上
PCCA	無	無	9 学年で C がないこと 実技/作品によるオーディション、中学校の推薦、面接重視
EGO	無	無	9 学年参加の場合 8 学年で 3.0 以上 10 学年参加の場合 9 学年で 2.75 以上 面接重視

○ CTBS: Comprehensive Tests of Basic Skills (County の実施する中学校生徒対象の総合基礎学力測定テスト)

○ IB, CAT, EGO は応募者が定員を超えて多数の場合は、コンピュータにより無作為抽出で選考される。なお、選考に漏れた場合は、waiting list に掲載され、空きを待つことになる。

(2) 履修形態の特徴

教科の履修形態は、IBの場合は、St. Petersburg High Schoolの一般学生と同一校舎で学ぶが、全く別編成のカリキュラムに従う。CATでは、専門分野及び理科、数学に関する科目に関しては、すべて magnet プログラム専用棟で授業が行われ、Lakewoodの一般学生と分離授業で実施される。しかし、その他の科目については共修形態が取られている。PCCAについては、専門分野を除き、academic coursesのすべての科目はGibbsの一般生徒との共修である。カリキュラムの構成は、各 magnet 共に修了課程を2段階制にして節目を設けている。IBでは、9、10学年生の履修課程をPIB(pre-IB)と称し、10学年の終わりに学力テストを課し、合格した生徒のみがIBに進級する。不振者はここでregular schoolへの進路変更を余儀なくされる。CATの場合も9、10学年をlower levelと呼び、この間に生徒は自己の選択系を決定する。11、12学年になると、6つにわかれた学系(Courses of Study Tracks) — Math, Engineering, Science, Computer, Multimedia, Medical — のカリキュラムに従い授業を受ける。PCCAでは、生徒は、入学選抜時点から自己の興味に応じた系を選択しており、8つの系で — Dance, Instrumental Music, Technical Productions, Theatre Performance, Key Board Music, Visual Arts, Musical Theatre, Vocal Music — 各々毎日3時間の専攻芸術分野の集中実技訓練と4時間の通常授業を受けている。PCCAのlower levelでは、自分の専門以外を含めた広い芸術各分野の基礎理論や技術の修得が配慮され、upper levelでは、専門性を高めると同時に、進学のための奨学金受給にも有利な科目が選択履修できる。

(3) 各 magnet 独自のカリキュラムの特徴

1) IB プログラム

PIB, IB共に高レベルのacademic科目を中核に据え、世界のトップレベルの大学への入学条件に見合う国際的基準に対応する厳格なカリキュラムが編成されている。同時にCritical Thinking and Study Skillsのように学び方を学ばせる科目やTheory of Knowledgeのような総合科目を必須としてプログラムの特徴を出している。また、オーラルコミュニケーション能力育成に見られる発表力も重視されている。生徒には各々にacademicコーチがつき、毎日コーチとの20分の面談を通して個人学習計画が進行する。PIB及びIBの国際基準の教科領域とそれに対するSt. Petersburg highのPIB, IBの科目設置状況は次の通りである。

(PIBの国際基準の教科領域)

(St. Petersburg Highの9及び10学年の履修科目)

- | | | |
|-------------------------------------|---|---------------------------------------|
| 1. Grammar, Composition, Literature | → | 1. 作文, 作品鑑賞 (文法も含む) |
| 2. Topics in Mathematics | → | 2. 代数 I & II, 幾何, 三角関数 |
| 3. Topics in Science | → | 3. 生物, 化学, 物理 |
| 4. Topics in Social Studies | → | 4. 政治経済, 世界史 |
| 5. Foreign Language | → | 5. スペイン語, 又はフランス語 (2年継続履修) |
| 6. Fine arts/PE/Practical Arts | → | 6. 音楽/美術, 保健体育 |
| 7. Inquiry Skills | → | 7. Critical Thinking and Study Skills |

(Research Techniques, Moral Reasoning)

(注) PIBの履修科目は、各々honors courseの科目とみなされるが、同校では、大学入学応募

申請に使われる GPA(Grade Point Average)の積算では、重みをつけていない。

- | (IB の国際基準の教科領域) | (ST. Petersburg High の11及び12学年の履修科目) |
|-------------------------|--|
| 1. Language A | → 1. 英語 (創作, 文学鑑賞を含む) |
| 2. Language B | → 2. スペイン語, 又はフランス語 |
| 3. Study of Man | → 3. 歴史, 心理学 |
| 4. Mathematics | → 4. 確率/統計, 微分積分基礎 AB and/or BC,
IB Math with Further Mathematics
/Discrete Mathematics |
| 5. Experimental Science | → 5. 生物II/III, 化学II/III, and/or 物理II/III |
| 6. Additional Course | → 6. 次の a~c の内 1 つを選択する
a. 上記項目 2, 3, 4, 5 の教科に関する科目の増加
単位での履修
b. Art/Design
c. Computer Science |
| 7. Theory of Knowledge | → 7. Theory of Knowledge (11, 12 学年のいずれか
で履修する 1 単位の必修科目。歴史的観点からの
科学, 宗教, 美学研究) |
| 8. Extended Essay | → 8. 4000語の essay または, 履修教科に関するテー
マで論文を提出する |

2) CAT

Upper level で 6 つの学系に分かれるが, 次の 2 点は全生徒に共通し, CAT のカリキュラムを特徴づけている。

① 科学技術系コースの基礎となる 3 領域が必修である。

- a. Computer-Science : 次の科目の中から 4 単位を履修修得する
Applications, AP Computer Science, Programing PASCAL, Advanced Programing
- b. Science : 次の科目の中から 4 単位を履修修得する
Physics I honors, Biology I honors, Chemistry I honors, AP Science of Interest
- c. Mathematics : 次の科目の中から 4 単位を履修修得する
Algebra II honors, Geometry honors, Pre-Calculus, Analytical Geometry,
AP Calculus A&B AP Calculus B&C Probability and Statistics,
Dual Enrollment Mathematics

② 4 年間継続の 4 単位科目 Research を設定し, カリキュラムの中核に位置づけている。科目名と授業の構成は次のとおりである :

Research I & II (How to conduct research), III & IV (presentation techniques), V (applications of technology), VI (個人の research project の完成)

3) PCCA

主な系にみられる特徴は, 次の通りである。

- ① Dance 系 : ballet, modern dance, jazz, tap character, ethnic dance などダンスの全領域を網羅し, 様々な様式を学ばせる。Lower level から, movement theory, injury prevention, anatomy, nutrition, music theory for the dance 等の関連科目を受講しながら, 更に専門的なダンス基礎技術, 舞踏史, 舞踏術等を実践を通して学ぶ。

- ② Music系：Lower, upper level共に、声楽、楽器の十分な個人技術指導の時間と練習の場を確保している。また生徒の技術水準向上のため、アンサンブルや公演への参加の機会を出来るだけ多く設けている。
 - ③ Theatre Arts系：Performance, musical/technical theatreに重点をおいた舞台芸術の様々な分野に関する知識と実技経験の機会が提供される。発声法、舞台表現法、theatre history, acting styles, movement/production skills等の専門科目が設けられている。
 - ④ Visual Arts系：現代の多様なメディアに関する知識・技術を学び、コンセプトを創造する能力の開発に焦点が当てられている。生徒は、lower levelで自分の制作分野を決定し、個人指導を受けながら、その能力を伸長させる。Drawing, painting, photography, ceramics, design, sculpture, printmaking, jewelry, crafts, art history等の専門分野の科目も履修できる。
- 4) もう一つの magnet school

前述の3つの magnets とタイプを異にする第4の magnet が Early Graduation Option(EGO) プログラムである。州の高校卒業認定に必要な26単位を修得するにあたって、通常の学期内での授業に加えて EGO の生徒のために特別に編成された summer sessions へ参加することにより4年制の高校を3年間で卒業出来るように組まれたプログラムである。1995—96年度の同プログラムの在籍生徒は125名である。同プログラムの修了者は、collegeの第一学年に進学することも、早期に高校を卒業することも可能である。1989年の夏にスタートして以来、この制度を使って95%が四年制大学へ進学している。

他の magnet と違う点は、EGO の生徒は、特別の系をもたず、regular school である Boca Ciega High School のカリキュラムの中での授業を受けることである。プログラムへの参加生徒は、9又は10学年で Boca Ciega High に於いて8週間の summer session を受講する。このため、9学年の入学時においては通常より早く新学期のスタートを切ることになる。Summer session の日課は7:30—14:30まで組まれており、Algebra II の Honors と Regular classes, Pre-Algebra, Algebra I, Geometry, P.E(weightlifting と recreation sports), computers, typing, English I の Honors と Regular classes, Spanish I, French I, World History の Honors と Regular classes が開講されている。最終学年における3回目の summer session は、夜間コースの選択で代替できる。他の magnet と同じように、通常のプログラム及び summer session への参加については学校区からスクールバスが提供される。この他に Boca Ciega High では、Advanced Placement courses を用意し、進学向きの科目編成をするとともに、個人指導の徹底、進学等への特別指導カウンセラーを配置している。(なお、同プログラムは、1996—97年度からは Osceola High に移る)

5. Magnet schools に共通する特徴

(1) 設置科目の工夫と実践的学習活動

① ユニークな科目/専門性の高い科目の設置

IB の Theory of Knowledge, CAT や PCCA の lower level にみられように、従来の教科領域にこだわらない合科的、総合的科目の設置により、広い視野を持たせ、発想の転換・思考の柔軟性を引き出していること。また専門性の高い科目が用意されていること。

② 学習・研究方法の指導

IB の Critical Thinking and Study Skills などのように、学び方を学ばせ、それを特設科目の

Research の中で応用させることにより、個人の学習への興味を呼び起こし、強い学習動機を与え、ると同時に、研究方法・態度を指導し、実践させていること。

③ Practical な能力の重視

CAT, PCCA に見られるように徹底した intensive, extensive な実技訓練を組み合わせ、実験、実践、field work を通して学習を単なる知的理解に止めず、体得させていること。

④ Technology の利用

テーマ領域に関連した実験、実習、実演に最新の教育機器、コンピュータ、オーディオビジュアル機器等を備えた施設・設備をフルに利用し、機器の自然な利活用により臨場感あふれ、活気ある授業展開と学習指導につなげていること。

(2) 個人指導の重視

IB では、生徒のアカデミックなニーズに答えるレベルの高い教科目の設置に加え、個人の適正・進路に応じて科目の履修が焦点化が出来るように、academic コーチの制度を設けてきめ細かい個別指導を行っている。CAT においても教員一人ひとりが academic コーチとなり、各生徒に個別カウンセリングを行っており、2週間に1度の coaching session では、個々の生徒の学力伸長度の分析及び生徒が行っている研究技術、研究方法について論議がかわされる。PCCA においても、毎日3時間の実技時間の中で十分な個人指導が行われているが、このような magnet プログラムにおける coach 対 coachee の関係は4年間継続されるため、実技指導に加えた人間関係が培われている。

(3) 大学進学へのシフトと結果のフィードバック

Magnet の性格から、AP course の設置は当然のことであるが、特に IB, CAT においては、academic な科目を中心に、PCCA では芸術の専門分野に関する科目に AP が設置されている。また、honor class と共に、AP の科目は GPA 算出の際に重みがかかけられており、IB, CAT における生徒の各種テストの受験を通じた受験技術を磨かせる指導と併せ、現実的な大学準備のシフトがとられている。学習成果のフィードバックも頻繁に行われ、PCCA でも、学期毎に実技評価が行われ、到達度、伸長の度合がチェックされる。ここでも、不振者は regular school に戻されるなどアメリカ的合理主義、結果主義が働いている。

(4) 通学便宜への配慮

Pinellas County 学校区の choice プログラムの内、fundamental schools を除いたすべてのプログラムでは school bus が提供される。通学者の交通手段が確保され、プログラムがより身近で参加しやすいものとなっている。

(5) 特活の中での community service (社会奉仕活動) の実践

IB では、IB の国際基準の Special Project の項目にあわせ、課外活動に creative, aesthetic, social service(CASS)を設定し、生徒に少なくとも216時間の community service の実行を義務付けている。CAT も同様に、中学校生徒への個人指導、障害児との共同作業等を通じた community service projects への参加活動を必須としている。このような奉仕活動は教科外活動を補うだけでなく大学の入学審査においても有意義な課外活動として評価される項目となっている。

(*課外活動の実態) いずれの magnet の生徒も母体校である regular school の諸活動への参加が期待されているが、magnet の生徒は多くが遠距離通学者であるため、授業終了の合図とともに、校門で待つ school bus に乗り込むのが精一杯であって、学校の課外活動への参加や regular school の生徒との交流の場は少ないと言える。

(6) 外部との連携 (Partnership)

各 magnet は、優れた教師集団を誇りとしている。その上、PCCA 等でも見られるように、積極的に外部から専門家を招き、技能の向上を目指すだけでなく、生徒が講師を通して専門の世界に触れ、創作活動に参加し、慣れ親しむ機会としていることである。CAT では、Pinellas county の大学、研究所、その他技術系企業とパートナーシップを組み、実際的な研究体験の機会を生徒に提供している。また、技術分野の専門家を招き講義を聞く Saturday Lecture Series も組まれている。

(7) 父母の積極的参加を要請

いずれのプログラムにおいても父母も生徒と一体となって学校教育への積極的参加を強く要請されている。CAT の場合は、毎月第3月曜日が meeting となっており、授業内容を含むプログラムへの意見、要望を持ち寄り議論する場が設けられている。また、regular school の一員でもあることへの意識高揚のため、毎月第4月曜日に開催される Lakewood High School Parent Advisory Committee への参加も奨励されている。

6. Public school choice の今後と展望

Choice programs は、連邦政府及び州の教育政策の追い風をうけながら拡大している。Choice の考えは、ブッシュ政権での America 2000 の中で重点教育政策として取り上げられ、その後の全国知事会議においても教育改革に関する確認・合意事項として各州に持ち帰られて州の教育政策に反映された。フロリダ州においても、州の今後の教育政策と方針をうたった Blueprint 2000 の中に位置づけられている。Pinellas County 学校区でも、1) 生徒に数学、理科、technology に興味を持たすこと、2) 同教科領域における学力到達度を高めること、3) 同教科領域における女子生徒、minority students の数を増やすことが当面の課題として取り上げられ、すでに開設されている高校での magnet のプログラムへ有機的に繋がる8学年前の magnet programs を設ける計画が学校区教育委員会から提案された。この提案をうけて Mathematics, Science, Technology & Foreign Language プログラムが1993年8月から実施に移され、Center for Advancement of the Sciences and Technology (CAST) と、同時にこれと併行して the Center for the Art & International Studies Program がスタートし、これら2種類の magnet programs は小学校と中学校の各一校ずつに開設されたのである。前者は、小学校では、児童生徒が観察と実験を通して physical earth and life science の活動を学ばせる合科的授業をカリキュラムの中心に据え、discovery learning や investigative learning のプロセスを通して抽象的概念や定義・規範を自ら発見して学ぶ学習態度に指導上の配慮が払われている。また中学校では、既存の MEGSSS や IMAST のカリキュラムが応用され、プログラムに組み込まれている。

一方、Center for the Arts & International Studies program は the humanities と art の系を相互に関連させ学ばせるが、4 または5学年で、このいずれか一方の系を選択させ、学習を焦点化させていく。中学校段階では当初から the fine/performing arts か、又は the humanities and foreign language の系を選択させている。カリキュラムは音楽、美術、国際教育、外国語教育が中心に据えられ、高校の IB、PCCA の magnet プログラムへ効果的につながるよう配慮されている。また、協同学習作業の重視、コンピュータ、telecommunications, music synthesizers, graphic design station, laser discs, CD ROM, video, electronic instruments 等の現代の様々な technology を使った教育が実践されている。

入学資格については両 programs 共に小学校では条件を設けないオープン方式であるが、プログラムへの高い興味関心が求められる。中学校では、小学校における当該のプログラムを優秀で修了

しているか、新規応募者については、小学校からの推薦、学年評価平均がB以上であることが条件となっている。この新しいプログラムにおいても、他の choice プログラムと同様、学区の desegregation のガイドラインの遵守、親の参加協力が必要とされる。

高校の magnet では、medicine, law enforcement, finance and education 等の専門職業系を中心とした magnet プログラムの新設計画並びに academic プログラムを更に 1 校 county の北部に増設する choice 計画が具体化し、1994年 8 月に Boca Ciega High School の Center for Wellness and Medical Professions, Pinellas Park High School の the Criminal Justice Academy, Largo High school の the Teaching Arts Academy が開校した。また1996—97年度からは County で 2 番目の IB が Palm Harbor University School で開校する。加えて Center for Wellness and Medical Profession のプログラムも Boca Ciega High から同校へ移転することになっている。

Pinellas County 学区は、すべての生徒に、より多くの choices を与えることが、この地域の dynamic な多民族・多文化社会に貢献する教育の責任であるとの理念を掲げ、プログラムの一層の拡大を図っている。確かに Pinellas County 学区の magnet に通学する生徒や親の満足度は高く、テーマ領域に関する施設、設備は実に充実している。しかし同一キャンパスにおける regular school との教育環境の差は歴然としており、看過することはできない。Magnet schools の本来の設立趣旨は、あくまでも、公立学校における人種的バランスをとるための手段として魅力あるカリキュラムを提供し、広範囲な生徒を集めることである。Magnet プログラムが併設された母体の学校自体の人種バランスは数学的に向上し、維持されたとしても、プログラム自体の生徒の人種構成で見ると minority の比重は決して高くない。その上 magnet schools は応募者に対して、それぞれ選考基準を設けている。それらは人権的基準に基づくものではないが、一部に学力の条件が付けられ minority の入学者数を少なくしている。学力差もアメリカ社会の人種的、社会的要因が生んだ新たな差別であるとの主張がある。Magnet schools choice の開発・促進は、そのような理論をどこまで納得させ、プログラムの趣旨を生かせるかという課題を抱えているといえる。

近年 public school choice には、magnet schools のような 1 校集中型から、site (学校現場) に一層の権限を下ろし、学校毎に個別の特色を持たせて、その中で競わせる全くオープンな choice をめざす流れがある。また学校の特徴づくりのために、州や学区の諸規則・則定を外し、現場の自由な裁量で学校運営を可能とした公立学校 charter school も登場している。更に、この競争の中で、州が親に voucher を発行することにより、私立学校をも含んだすべての学校が選択できることをめざす voucher school choice の法制化も幾度となく話題となっている。合衆国の内では school choice 待望論と共に、choice program はより自由化をめざして様々な形をとって実験されている。Pinellas County の public school choice は合衆国の choice programs の中でも、比較的歴史があり、広く受け入れられ定着しているいわゆる magnet school 方式を採用した choice の典型といえる。しかし、合衆国の choice programs はこのような choice の実績の上に、今後更にオープンな choice の開発をめざしていることは確かである。

(注)

本文は、1993年 9 月26日から同年10月 2 日における Pinellas County 学区の教育委員会委員及び事務局担当者との面談、学校訪問による現地調査に基づき、データは最新の資料で補った。Pinellas County High School に関する記述は次の同学区の諸基準を前提としている。

同 county の high school は 4 年制であり、9, 10, 11 及び 12 学年から成っている。

1) 高校卒業要件

- ① 最低26単位を修得すること（1単位は週を通して毎日同時間に授業が行われるため、日本のカウント方法では5単位分に相当する）
- ② 学区が行う High School Competency Test(HSCT)に合格すること
- ③ 次の教科領域の科目から、()内の単位を必修として修得すること
英語(4単位), 数学(3単位), 社会(3単位), 理科(3単位),
保健(1/2単位), 体育(1単位), 芸術/技術(各々1/2単位か, いずれか一方を1単位)
- ④ なお, 学区の卒業要件を満たしながらも, 学年の平均評定が1.5に達しない生徒は, 通常の卒業証書にかわって修了証明書が発行される。

2) クラス編成上の留意点

科目により, 学力及びそれまでの修得科目/単位数に応じたクラス編成が行われ, 受講資格に制限のある場合がある。

- ① 能力に応じた学級編成: 継続履修を前提とするアカデミックな科目では, Regular(一般), Honor(上級), Basic(基礎)のように設置されている場合がある。
- ② 大学での履修の先行履修が可能で, 大学で修得単位としてカウントされる科目
 - a. Advanced Placement(AP): アカデミックな科目において, 更に高度な内容を学習し, Advanced Placement Tests を受けて, 認定される。
 - b. Dual Enrollment Program: 選択科目の中に, 大学との共通履修科目を設け, 修得単位は提携校 St. Petersburg Junior College においても修得単位としてカウントされる。受講者は11, 12学年生であること, また GPA(評定平均: Grade Point Average)が2.5または3.0以上であること。

3) 評価基準

- ① 中間評価(Six-Weeks Grades) 6週間ごとに次の文字評価が与えられる。
A (100-94) B (93-85) C (84-75) D (74-65) F (64-0)
- ② 学期末評価(Semester Grades) 3回の中間評価と期末試験の平均に基づき与えられる。
この際各々の文字評価には次のように評定点が与えられる。履修クラスにより点の重みが違ってくる。APの科目はhonorクラスの科目に読み替えられて計算される。

(文字評価段階)		A	B	C	D	F
Honor	クラス	5	4	3	1	0
Regular	クラス	4	3	2	1	0 (この評定点の平均がGPAと
Basic	クラス	3	2	1	0.5	0 して算出される)

参 考 文 献

- 1) Boyer, L.E.(1992)*School Choice*. New Jersey: The Carnegie Foundation for the Advancement of Teaching. California/Princeton Fulfillment Services
- 2) ——— (1991)*MAGNET SCHOOLS: Promoting Equal Opportunity and Quality Education*. U. S. Department of Education; Office for Civil Rights
- 3) ——— (1992)*Blueprint 2000: A System of School Improvement and Accountability*. Florida: The Florida Commission on Education Reform and Accountability
- 4) ——— (1991)*America 2000: An Education Strategy*. U. S. Department of Education
- 5) ——— (1992)*AMERICA 2000 COMMUNITIES: Getting Started*. U. S. Department of Education
- 6) ——— (1993)*CENTER FOR ADVANCED TECHNOLOGIES*. Florida: Lakewood High School

- 7) ——— (1993)*PINELLAS COUNTY SCHOOLS FUNDAMENTAL SCHOOLS*. Florida : Pinellas County Schools
- 8) ——— (1993)*Early Graduation Option Program*. Florida : Boca Ciega High School
- 9) ——— (1993)*PINELLAS COUNTY CENTER FOR THE ARTS : Audition Information and Guidelines*. Florida : Gibbs High School
- 10) ——— (1993)*International Baccalaureate*. New York : International Baccalaureate North America
- 11) ——— (1993)*CENTER FOR THE ARTS AND INTERNATIONAL STUDIES MAGNET PROGRAM AT PERKINS ELEMENTARY AND SIXTEENTH STREET MIDDLE SCHOOLS*. Pinellas County Schools
- 12) ——— *MAGNETIC MOMENT* 1992 Vol. 1 No. 1, 2, 3, 4. 1993 Vol. 2 No. 1, 2
- 13) ——— (1990-91)*InSight : A LOOK AT OUR SCHOOLS*. Florida : Pinellas County Schools
- 14) ——— (1991)*KNOW YOUR COUNTY*. The League of Women Voters
- 15) McMillan, B. C.(1980)*Magnet Schools : An Approach to Voluntary Desegregation*. Indiana : The Phi Delta Kappa Educational Foundation
- 16) ——— (1995)*Public Hearing on 1995/96 Millage Rates & District Budget*. Florida : SCHOOL BOARD OF PINELLAS COUNTY
- 17) Cookson, Peter W., Jr.(1994)*School Choice : The Struggle for American Education*. New Haven, Conn. : Yale University Press